全学FDセミナー　オンライン授業実践事例②

オンライン講義の一例：
大人数講義におけるkibacoの活用

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学

2020. 7. 30

経済経営学部　　村田啓子

Outline

1. はじめに：科目の紹介
2. オンライン講義の実際
   1）講義の準備・進め方
   2）kibacoの活用（小テスト・資料・アンケート等）
   3）Zoomチャット機能
3. 対面講義と比較した学生の反応・行動
4. オンライン講義のメリット・デメリット

1．はじめに：科目の紹介

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
TMU

- 約450名が仮登録（全学共通科目）
  - 1年生が多い（320名）ものの、全学年全学部に履修者
  - 経済経営学部生にとっては専門科目の基礎科目群

⇒Zoomウェビナーによるオンライン講義
（学生側カメラのオン設定がない）

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
TMU

➢大人数オンライン講義の課題

- 学生の受講（機器や通信）環境が同一とは限らない
- 双方向型方式には人数制約による限界

⇒2つの留意事項（クリアすべき課題）

1. 学生側の受講環境にも配慮しつつ、講義の質を維持し、かつ学生の自主的な学修を促すには？
2. 対面講義では適宜入手可能な学生側の情報（学修状況等）をどう得、かつ可視化するか？

２. オンライン講義の実際
１）講義の準備・進め方

➢教科書との関係
- シラバスで指定済（基礎科目群）
- 教科書に沿った内容に
（機器・通信環境の差に起因する格差抑制）

➢レジュメをオンライン用に工夫
- 毎週A4で３枚程度（印刷する学生の負担に配慮）
- 定期的（1週間前）にkibacoにUP（予習・復習の習慣化）
- レジュメ内に教科書の該当ページを記載
- 毎回末尾に「復習問題」を記載（対面でも有用）

1）講義の準備・進め方（つづき）

- レジュメを画面共有（iPad同期、ペンシルで板書に代用）
  - 書く量は制限　（例）重要な式、グラフ
  - 学生に好評につき、継続
- 休憩：開始後40分を目安に3分程度

  （参考：松田岳士教授の4月ガイダンス）

- 学生側の情報（学修状況等）をどう把握し、かつどうフィードバックするか？

  ⇒kibaco、チャット機能

２）kibacoの活用

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
TMU

➢小テスト（テスト機能）

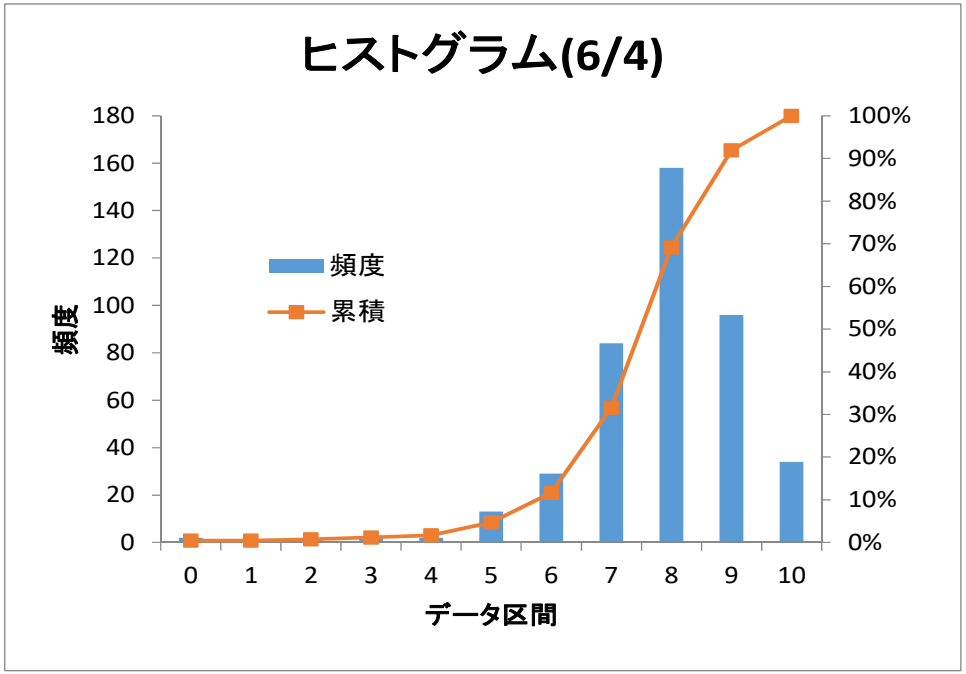
- 早い段階でkibacoによる小テストを実施

  （4週目、第１回講義で予定周知済）
- 受講環境（スマホで受験するか）を確認
- 前の週（3週目）に模擬テスト（動作確認）

  模擬テストでは400名アクセス集中のためか、「重くて入るのに時間がかかり、不安だった」との意見

  ⇒翌週は受講生を2つに分け開始時刻を30秒程度ずらし実施
- 自分の点数・正解がすぐ確認できる
- テスト結果（点数分布）を翌週の講義で紹介

小テスト（6/4）の実際の結果（受講生に翌週提示）



Mean　7.8

Median　8

⇒良好な結果。講義方針継続（その時点で登録者数440名、未受験19名）

⇒受講生にとっても自らの学習成果を確認（可視化）

２）kibacoの活用（その他工夫したこと）

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
TMU

- 資料
  - 1週間前に定期的にUP
  - 講義後は「講義終了分」フォルダに移行・保存
- アンケート
  - 「授業アンケート」を6週目に実施（講義時間外、任意）
  - 学生が自覚する理解度・講義への要望等を確認
- お知らせ
  - 重要事項はここで周知
  - ZoomURLは前日20時頃発信

３）Zoomチャット機能

- 講義中の書込み自由（全員宛推奨）
  ⇒回答は主として休憩時間及び講義終了後に口頭で対応
- 質問は多種多様だが、講義改善に参考になるものも含まれる

３．対面授業と比較した学生の反応・行動

- 出席率（入室者数）が高い
- 質問が多い
- テストや課題など、学習への取り組み等は対面と変わらなかった（期限設定は必要）

⇒講義に毎週出席、kibacoを定期的に確認し、自主的に学修に取り組む、自律する学生像

（ただし、新型コロナ危機による他の活動の制約等、今学期の特異性は考慮すべき）

4. オンライン講義のメリット・デメリット

＜メリット＞

- チャットによる質疑応答：対面講義と比べ質問が多い
- 教室（注：1号館での講義）の通信環境に左右されない
- 講義後の休み時間活用が可能（講義後すぐ退室の必要がない）
- kibaco小テスト活用が容易
- 教室の温度（6月の暑さ）と無関係

＜デメリット＞

- 「人数制約がないことはオンライン講義の利点」ともいわれるが、人数増に従う教員負担は対面同様に（あるいは対面以上に）増加
- 大人数講義では双方向性に工夫が必要
  - 入室コスト＜通学コスト

  ⇒学生側は受講負担軽減もある一方、入室していても集中しているか等は、大人数になるほど把握が難しいリスク

⇒オンラインでも大人数講義は好ましくない可能性

最後に

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
TMU

kibacoサポート担当の方々に感謝します。

✓kibacoテスト機能は利用経験がなく、マニュアルを読んでも細かい設定方法でわからない点が数多くあった。

✓なるべく質問を具体的にして問い合わせたところ、解りやすい回答をいただいた（複数回）。